

だうんとびっくす

まちの話題や出来事をご紹介します

▶観客席に下りて児童の目の前で演奏をする柳樂さん。



生の音楽で豊かな心を育む

本格的な生の音楽を鑑賞することで豊かな心を育んでもらおうと12月3日、「子どもたちのための音楽鑑賞会」をアルテピアで開催しました。この鑑賞会はアルテピアが開館してから毎年、市内の小中学生を対象に行っています（昨年度はコロナで中止）。

ステージではピアニストの渡辺治子さんと「全国植樹祭しまね2021」にも出演したバイオリニストの柳樂毬乃さんが演奏。響きの良いアルテピアの大ホールで、子どもたちはいつもの音楽室とは違う音の響きを味わっていました。

▶協定書を持つ清水谷会長（右から3番目）、関係者、田中市長。



お寺とのタッグで防災力強化

災害に備えて、12月9日、市は安来市仏教会と災害時支援に関する協定を締結しました。

この協定により災害時、市内36カ所の寺院を周辺住民などが一時退避施設として使用できるようになります。使用できる場所は寺院によってさまざま。本堂や駐車場、トイレなどが開放される予定となっています。対象の寺院は市ホームページで公開しています。

同教会の清水谷善圭会長は「協定により、一時退避施設の寺院に支援物資がきちんと届くようになる。災害時、役に立てられれば」と話していました。

今月の一枚



市役所安来庁舎前のイルミネーション「どじょナリエ」（主催：安来商工会議所青年部）。電飾でハートが作られた撮影スポットでは、家族や友人たちと写真を撮る人の姿が見られました。

撮影日：12月20日

優良施工業者を表彰 市長日記

工品質の確保と建設技術の向上を目的に12月7日、優良な工事を施工した建設業者と技術者を表彰しました（受賞業者：株式会社中島建設、泉空調設備有限会社安来出張所、アクアシステム株式会社）。

この受賞をきっかけに、住みよいまちづくりを進めるため、さらなる技術力の向上や地域の担い手の育成を期待しています。



▶表彰の概要は市ホームページに掲載しています。



このマークの記事は、関連写真を「市公式フェイスブック」で公開しています。



▶落語を交えながら講演する桂花團治さん。



受け入れる心が大切

人権について考えるきっかけにしてもらおうと、12月12日に安来商工会議所で「人権フェスティバルつなげて未来や2021inやすぎ」を行いました。

落語家の桂花團治さんによるオンライン講演会を開催。自身の経験を交えながら「人を見下したり、怒りで返したりするのではなく『しゃあないやっちゃんあ』と困惑やあきれで受け入れる心が大切」と訴えていました。

また、人権にちなんだ花の絵の作品展示などもあり、来場者は人権について理解を深めていました。

母里の年末の風物詩、山姥現る

やまんば

師走恒例の「母里市やまんば祭」が12月25日に伯太町母里で開催されました。町の通りでは朝からもち、しめ縄などの正月用品や地元の農産物などの露店が立ち並び、多くの人でにぎわいました。

途中、山姥の面をつけた男性スタッフが登場。買い物客にお菓子や福引券を配るなどし、地元の年末の風物詩として会場を盛り上げていました。

この行事の起源は江戸時代。母里藩の役人が、老婆を山姥に扮装させお金を配り、町をにぎわせたことが始まりとされています。



▶山姥から恐る恐るキャンディーを受け取っていました。

山佐ダム 交流の場として表彰

ダムに関わる上下流交流などに顕著な功績のあった個人や団体を一般財団法人日本ダム協会が表彰するダム建設功績者表彰。今年度、「山佐ダム体験交流施設管理組合」が表彰を受けました。

市民などの憩いの場として健康と福祉の増進、生活文化の向上を図ることを目的に設立された同組合。この目的に沿って行う「キャンプ場まつり」や「手打ちそば体験」などの活動が、上下流域の地域間交流や相互理解に大きく貢献している点が高く評価されました。

写真(下)はテントが立ち並ぶ同ダムキャンプ場。

▶表彰状を持つ福間勝巳組合長(左)と盾を持つ岩田治作副組合長(右)



▶東京2020パラリンピックの種目になった「ボッチャ」。

誰もが楽しめるスポーツ

ニュースポーツを通してスポーツの楽しさを知ってもらおうと12月12日、伯太体育館で「スポーツ・レクリエーション広場」が開催されました。

誰でも簡単に楽しめるニュースポーツ5種目が用意されたこの催しは、安来市スポーツ推進委員連絡協議会が主催。市内から集まった35人が「ヒットだ！ターゲット（フリスビーで的を射貫く競技）」や「スカットボール（パターゴルフのような競技）」といった種目を体験しました。

長尾颯哉さん（9歳）は「今までしたことのないゲームができて楽しかった」と話していました。

